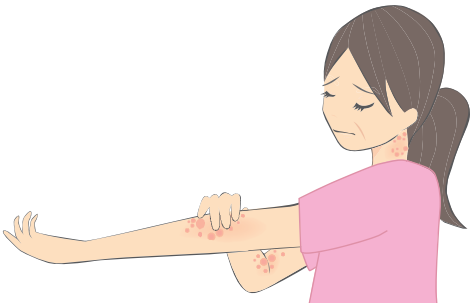
お肌の話
第150回

“結節性痒疹(けっせつせいようしん)”の痒みを抑える

新しい治療薬が登場しています

立川皮膚科クリニック
www.tachikawa-derma.com

結節性痒疹（けっせつせいようしん）



「腕や首にできた発疹が痒くて夜も眠れない、結節性痒疹（けっせつせいようしん）を治す方法はありますか？」日本皮膚科学会認定皮膚科専門医・立川皮膚科クリニック院長の伊東秀記先生に、聞きました。

―結節性痒疹とは？

「重症のアトピー性皮膚炎のように、強くはげしい痒みを伴う慢性皮膚疾患のこと。長い期間痒みが続き、皮膚が豆粒のように硬く腫れるのが特徴です。とにかく痒いので掻きむしって傷痕が目立ち、昼も夜も集中できず、生活に支障が出ることもあります」

―治療できますか？

「痒みを抑えるステロイド系の外用薬や抗ヒスタミン剤、抗アレルギー薬などの服用が基本ですが、それでも痒みが治まらない重症の場合には、皮下注射で行う新しい治療薬が使えるようになりました。ひとつは、炎症の原因であるタンパク質（サイトカイン）に働きかけて痒みを抑え、皮膚のバリアフリー機能を保つ、デュピルマブという薬剤です。

さらに今年の3月、成人および13歳以上の小児の結節性痒疹治療薬として追加承認されたのが、ネモリズマブという皮下注射用の薬剤です。痒みの連鎖、悪循環を遮断して皮膚症状を改善、ＱＯＬの向上が期待されています。使用にあたっては、医師による検査と正しい診断が必要です。

まずは皮膚科専門医に相談して下さい」

院長：伊東秀記
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業

問い合わせ
TEL042-843-1377
JR「立川」駅南口徒歩2分

休診日：日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30～13:30	○	○	○	○	12:30まで受け付け	○
15:00～19:30	○	○	○	○	18:30まで受け付け	17:30まで受け付け

2024年6月28日付「リビング多摩」に掲載されました